

令和元年度八代市医師会事業報告

地域包括ケアシステムの構築に併せ、これまで会員の先生方から寄せられていた八代市医師会立病院の求められる将来展望について、八代市医師会立病院在り方検討委員会で病床機能の見直しと充実、これに併せた検査機器や設備の整備について検討を重ねた。

八代地域在宅医療南部サポートセンター（八代市医師会立病院地域医療連携室内）において、無床診療所や有床診療所の先生方から急性期病院や中小病院への患者紹介など、主治医の先生方のご指示をいただきながら患者紹介等の負担軽減をサポートする業務を実施した。

病床機能の見直しと充実については、熊本県知事より指定を受けた地域在宅医療サポートセンター事業（熊本県補助金）を前述の八代地域在宅医療南部サポートセンター業務として実施した。これは、外来診療・往診・訪問診療を行っておられる先生方の患者で軽症の肺炎や慢性疾患の急性増悪（サブアキュート）など、急性期病院への入院を必要としない患者を中小病院や有床診療所での入院受入れの確保と入院先を探す負担軽減を主な取り組みとして実施した。

特に、八代市医師会立病院では、検査機器の導入や施設整備と充実を図り、先生方の要望に応え得る、当日、または翌日での患者入院が可能な体制を出来上がった。

令和元年度、八代市医師会の大きな流れは以上であるが、以下は各事業部門の主たる事業について報告する。

《医師会事務局》

1) 公衆衛生向上及び社会福祉増進を図る事業（地域保健・学校保健・母子保健・産業保健・福祉医療） 2) 医道の高揚・医学医術の発展普及を図る事業 3) 会員相互扶助事業の業務がある。特に地域保健における第7次保健医療計画の推進、福祉医療における第7期介護保険事業計画の推進、学校保健での小中学校における学校医手当て等の予算折衝や学校医の配置など、関連の関係機関と緊密な連携を取りながら最新の情報収集、提供と迅速な対応に努めた。

《看護学校》

地域医療において、医療・保健・介護・福祉のそれぞれの分野で専門性を活かした看護師及び准看護師養成の重要性を踏まえ、看護師国家試験並びに准看護師検定試験では常に県内トップクラスの合格率を維持し、卒業生の県内就職定着率もAランク評価の調整率を得ている。

また、看護師2年課程・准看護師課程ともに受験応募者が年々減少傾向にあり、担当理事を中心に検討が重ねられ、オープンスクールの開催などに取り組んだ。

《健診検査センター》

医師会共同利用施設として、地域・職域での各種健診やがん検診など多岐にわたる業務を担い、疾病の予防・早期発見に努め、早期治療のための勧奨を行い、また、八代地域唯一のラボとしての質の高い精度管理を基本に、緊急及び24時間対応の検体検査体制を整備し、健診業務並びに検査業務それぞれであらゆるニーズに迅速かつ的確に対応した。

《訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所》

地域包括ケアシステムの構築に向けた訪問看護ステーションの重要性と医療・介護・保健・福祉など、多職種のリーダー的存在としての体制整備を進め、医療の立場から、特に医療依存度の高いケースに重点的に対応した。

また、居宅介護支援事業所では、特定事業所加算取得に向け、スタッフの配置や多事業部門との連携強化策が検討された。

《医師会立病院》

医療療養病床（入院基本料 I 100床）での病床稼働で医療区分2または3の入院患者を3ヵ月平均で80%以上という厳しい基準を維持するために、限られた看護スタッフと地域医療連携室スタッフの連携によるプロフェッショナルリティーに感謝しなければならない。

また、常勤医師2名の配置により院長を中心とした病院運営の充実と機能の体制整備が進められた。

《夜間急患センター》

八代市の委託を受け、本会会員の尽力で八代市民の夜間急患センター利用が確実に定着している。特に小児医療については、小児科医会並びに内科協力医師による小児医療の充実は、八代市医師会活動の大きな柱の1つである。市民のニーズや感染症流行期など、あらゆる状況に応じた体制整備に努めた。